# どんぐりの森通信

第19号

2010年 9月30日

ようやく朝夕に秋風が立ち始めた9月、長くて暑い今年の夏もどうやら終わりに近づいたようです。紅葉が遅れている分、長く楽しませてくれた秋の花やトンボもそろそろ見おさめでしょうか。

今年10月に名古屋で開催される「国連地球生きもの会議(生物多様性第10回締約国会議」)に向けて、各地でさまざまな催しや会合が開かれています。メディアでも「生物多様性」という言葉に出会うことが多くなりました。難しいコトバですが、私達の活動の中でも、その意味を考えさせられる機会が増えてきたと感じています。ニホンザリガニやエゾサンショウウオ、エゾホトケドジョウなど絶滅や減少が危惧される水辺の生きものたち、開発や盗掘で消えていくランやヤマシャクヤク等の野草、他方で増殖が心配なトノサマガエルや繁茂し続けるニセアカシア。私達の身近な活動地域に限って考えても、生物多様性をめぐる課題が数多くあります。地域の身近な自然に親しむ活動の中で、「生物多様性」という地球規模の問題に目を向けさせられた今年の夏でした。

## **❖❖❖ 春・夏の活動から ❖❖❖**

# ながぐつの土曜日

「ながぐつの土曜日」は、小学生の親子を中心にした自然観察会です。毎月第2土曜日に平岡公園管理事務所と 共催で行っています。毎月、大勢の子供たちとお父さんお母さん、ボランティアの学生さんが集まって、にぎやかに 園内を探検しています。4・5月の活動の様子と、参加した小学生の感想文を紹介します。

## 4月10日(土) 春の森たんけんたい

まだ雪の残る寒い日でしたが、一足先に春を見つけよう!と張り切って大勢の参加者が出発。例年より気温が低くカエルの産卵が遅れていますが、木道周辺で産みたてのエゾアカガエルの卵塊24個を見つけることができました。ぷりぷりのゼリー状の卵塊をそっと手に乗せた子供たちの笑顔が広がります。「いつオタマジャクシになるの?」 来月も来て見ようね!



### 5月8日(土) 若葉の森たんけんたい



小雨の降る寒い日、低温続きで梅の開花も遅れている公園内は人影もまばらです。湿地では**エゾノリュウキンカ**や**ミズバショウ**がまだ花を咲かせていました。先月たくさん見た**エゾアカガエル**の卵は、もうほとんどオタマジャクシになって泳ぎまわっています。そして、いよいよトノサマガエルの産卵が始まりました。卵の大きさはほぼ同じですが、オタマジャクシや成体になったら段違いの大きさ。繁殖力が強いことからエゾアカガエルとの競合が心配されています。北海道には生息していないはずのトノサマガエルが平岡公園で増加してきたのは、この数年のこと。「どうしてここに来たのだろうね?」「エゾアカガエルを守るにはどうしたらよいのだろう?」答え

はすぐには出ませんが、園内の生きものたちの変化をしっかり見ながら方策を考えていきたいものです。

#### 平岡公園で楽しかったこと 西園小5年1組 高橋泰紀

僕は毎月、第2土曜日にある「ながぐつの土曜日」に西区から参加しています。

なぜなら、いっぱいいる生きものとふれあえるからです。ゆうさんが生きものを教えてくれてわかりやすいです。質問したら、答えを返してくれるからです。なんでも知っていてびっくりしました。

らくのう学園大学のお兄さん、お姉さんもいろいろ知っていてすごいなと思いました。カエルを(色ちがいのカエルも)見せてくれてびっくりしました。

ふだん、見られない生きものが見れてうれしいです。いつも探検している場所にウルシや、でかいミズバショウがあります。1年を通して観察したいです。

## \*\*\* 春·夏の活動から(その2) \*\*\*

## 平岡公園ツリーウオッチング

樹木を中心に、平岡公園の四季の移り変わりを定点観察する『ツリーウオッチング』。自然観察協議会指導員の佐藤さん(ゆうさん)を案内人に、毎月第3水曜日の午前中に開催しています。

## 7月 14日(水) テーマ: つる性樹木の観察・大きな葉

初夏の森をゆっくり散策します。公園入口でたわわに実るヤマブドウが迎えてくれました。コクワもヤマグワも今年は豊作のようです。シナノキとオオバボダイジュはそろそろ花盛りを過ぎ、イヌエンジュの遅い花が咲きはじめました。イワガラミとツルアジサイが木の幹を這い上がる様子を見ながら散策路を行くと、オオウバユリの香りも漂ってきました。足元にはシャクジョウソウが顔を出し、この森に多いアクシバが可愛い花を咲かせています。この日「森で一番大きな葉」はヤマウルシで衆議一決しました。紅葉の時期が楽しみです。



## 夏休み平岡公園にぎわいフェスタ 8月14日(土)



今年のにぎわいフェスタ(主催:夏休みにぎわい隊)は、酪農大学の学生さんが中心になってイベントをもりあげてくれました。森の中を歩きながら、目に付く題材をテーマにした『自然大発見ビンゴゲーム』でスタートです。平岡公園でおなじみの生きものを盛込んだ動物ゲームで汗を流した後は、涼しい木陰に入って、小川で魚を捕まえよう!大人も子供も一生懸命、タモ網で魚や水生昆虫などたくさん捕まえました。捕まえた生きものはじつくり観察してからもとの小川に返しました。

(今日見つけた魚と水生昆虫) (スナヤツメ15 フクドジョウ大2、中1 エゾトミョ2 イバラトミョ1 エゾホトケ1 スジエビ3 オニヤンマのヤゴ

8 モイワサナエ 1 ゲンゴロウ 1 ガガンボの幼虫 1 オタマジャクシ 2 トノサマガエル 3 (仕掛けによる捕獲)フクドジョウ 13 エゾホトケ 2 トミヨ類 28 スジエビ 4 オニヤンマのヤゴ 2 モイワサナエのヤゴ 2 カワニナ多数 オタマジャクシ 2 マツモムシ 1

## アオサギ観察会 5月14日(金) 6月18日(金)

北海道アオサギ研究会(代表松長克利氏)と平岡どんぐりの森の 共催で①平岡コロニーと②江別コロニーの 2 箇所で観察会を行いま した。平岡コロニー(イオン平岡ショッピングセンターの森)では、平岡 高校のご協力で学校の屋上から双眼鏡やフィールドスコープでアオ サギの営巣地を観察しました。5月の観察会では、抱卵する親鳥とと もに、生まれたばかりの小さな雛の姿も見えました。6月には、幼鳥 が早くも巣から離れて飛行訓練をする様子を観察しました。夏の終わ りに南に向かって旅立つためには、しっかり練習しなければなりませ んね。



江別コロニーは観察場所からの距離が近いので、双眼鏡でのぞくとアオサギの表情まで見えるようです。松長さんの説明を聞きながら、巣の上に立って親鳥を待つヒナたちや、親鳥から餌をもらう様子を観察しました。

江別コロニーは営巣場所に人間が近づくことが可能で、写真を撮りに来る人が増えています。アオサギは警戒心が強く抱卵時期は特に敏感で、人間が近づくと飛び立ってしまうこともあます。営巣放棄という事態も起きかねないので、アオサギに近づき過ぎないようにロープが張られています。観察会では参加者にアオサギの習性を知ってもらい、観察マナーを守って、アオサギの営巣を見守ることができればと思います。

## 平岡公園ボランティア活動

7月 2日 湿性植物貴重種の植栽(ホソバノシバナ、エゾサワスゲ、モウセンゴケ、コタヌキモ) 7月14日 観賞用コンテナにミズゴケを植栽 人工湿地の除草 (主にヨシ、クサヨシ、ガマなど)

## モニタリングサイト 1000 里地調査

平岡どんぐりの森は、環境省のプロジェクト『モニタリングサイト 1000 里地調査』の一環として、カエル類(平岡公園)と鳥類(東部緑地)の調査に参加しています。

#### ●鳥類調査

越冬期・繁殖期各 3 回の調査で、東部緑地の大曲川沿いの遊歩道約1kmを歩きながら、両側 50 メートル以内に 視認できた野鳥の種類・数を記録します。今年は 2 年目になりますが、昨年の同時期に比べて夏・冬共に種類も数 も減少しています。5年間の調査なので、この傾向が今後も続くものなのか注意深く見ていきたいと思います。 (2010 年度の調査日: 越冬期 '09 年 12/26 '10 年 1/22、2/10 繁殖期'10 年 6/9 6/25 7/14)

#### ●カエル調査

エゾアカガエルは、年1回の産卵期には産卵可能なサイズの全てのメスが1匹あたり1つの卵塊を産卵します。 卵塊の数を数えることで、その地域に生息するカエルの個体数を把握できます。



2010年の調査日: 3/31 4/10 4/21 5/8(平岡公園湿地エリア) 3/31には、まだ卵塊は見られませんでした。

4/10に人工湿地で卵塊 24 個確認。

4/21 人工湿地で 202 個、上流湿地の木道で 22 個を確認。 5/8 にはほぼ全てが孵化、オタマジャクシがうごめいていました。 昨年よりも産卵は遅め(1 週間くらい)でしたが孵化はほぼ同じ時期になりました。エゾサンショウウオの卵塊も見つかりました。

侵入種トノサマガエルの繁殖が広がる人口湿地エリアは特に、今後の 変化に注目しながら調査を続けたいと思います。

札幌新道延長工事の再開決定

2007 年度に中断したままになっていた札幌新道の延長工事が再開されることになりました。工事区間は平岡公園東から緑が丘までの高速道路両側約2kmで、周辺には希少な植物や、エゾサンショウウオ、二ホンザリガニ、エゾホトケドジョウなど貴重な生き物が多数生息しています。札幌市は今回の工事再開にあたり、こうした生きものの生息状況を把握するために、再度環境調査をおこなっています。前回の環境調査(2002年度)から年数が経ち、周辺の宅地開発等の変化も大きいので、私達も今回の調査結果に注目しています。道路工事にともなう生息環境の変化(破壊)から、こうした生きものを守るためにできることは何かを考えていきたいと思います。



## 前田一歩園財団の助成金報告

前田一歩園財団から2009年度自然環境保全活動助成金の交付を受けて、冬の活動に必要な子供用スノーシューの購入と、観察会の資料用の「平岡公園の水辺の生きものたち」のパネル作成に使いました。

パネルの作成はさっぽろ自然調査館に依頼し、平岡公園で見られる魚や水生昆虫の生態を写真とイラストでわかりやすくまとめてもらいました。



冬のながぐつの土曜日や公園フェ

スタでは、低学年の子ども達はプラスティックの子供用かんじきを使用していましたが、履きにくく脱げやすいので、雪の中で苦労していました。新しい小型スノーシューで足元は万全。張り切って雪の森たんけんに出発しました。



# 文と写真 酪農大学大学院 酪農学研究科 野生動物保護管理学研究室 義久 侑平

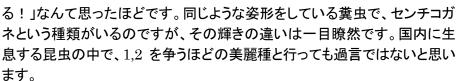
皆さんは「糞虫」と呼ばれる昆虫をご存知でしょうか?文字通り、野生動物の落し物を糧に生きているコガネムシの仲間です。「うわ、きたない!」なんて思いますよね…。その通りです。野外での彼らの体は糞まみれで、私もあまり素手で触りたいとは思いません。しかし、もし彼らがいなくなれば自然界は動物の糞だらけになってしまいます。なぜか…実は、彼らは糞の分解という重要な役割を果たしているのです。

糞虫の仲間はほとんどが小さく、色も地味なため、あまり目につくことはありません。またその生態からも、ちょっと外に出たくらいでは見つかることはないかと思います。そんな彼らですが、中には「目立ちたがり?」なんて疑ってしまうような種類もいます。それがオオセンチコガネです。

オオセンチコガネは沖縄を除く日本各地に広く分布しています。道 内では道東、道南に局所的に生息しており、エゾシカの糞に依存して 暮らしていて、生態は他の糞虫と何ら変わりはありません。では何が 目立つのか…それは体色です。写真のように、緑色だったり赤色だっ たり…実に様々なバリエーションがあります。本州ではさらに藍色が 加わり、「どこかの戦隊ヒーローか!?」なんて、思わず突っ込みたく なるような配色です。(註 1\*)



また、光沢が非常に強く、初めて野外で糞に群がる彼らを見つけたときは、「糞が光って



道内では、5 月の連休くらいから活動しています。皆さんも、もしどこかで 光る糞を見かけたときは勇気を振り絞って近づいてみてください。光り輝く彼らを見て、糞虫のイメージが変わるか も?

註 1\* カラー写真をご覧になりたい方は、**平岡どんぐりの森のホームページ**(**下記**)で、どうぞ。

## ♪♪秋・冬の活動予定♪♪

10月 9日(土) ながぐつの土曜日 (秋の森たんけんたい)

10月13日(水) 平岡公園ツリーウオッチング(冬の備えはできたかな?)

11月10日(水) 平岡公園ツリーウオッチング(樹木と鳥の関係)

1月 9日(土) 冬休み平岡公園にぎわいフェスタ

2月 9日(土) 平岡公園ツリーウオッチング (スノーシューハイク)

2月 12日(土) ながぐつの土曜日 (雪の森たんけんたい))



発行 平岡どんぐりの森 (代表 荒井美和子)

〒004-0033 札幌市厚別区上野幌3条5丁目12-8

tel. fax 011-896-0058

ホームページ http://dongurinomori.web.fc2.com/

